

第568号

主な記事

- ・年頭所感 (1面)
- ・新年特集
「いわてのよいもの、よいところ」 (2・3面)
- ・マイナ保険証トラブル調査【第3弾】 (4面)
- ・ウイーンクリスマスオンラインツアー (4面)



発行所

岩手県保険医協会

〒020-0034
盛岡市盛岡駅前通15-19
TEL 019-651-7341(代)
FAX 019-651-7374
発行人 小山田 榮二
https://www.i-hoken-i.org
購読料 年2,400円(〒別)
会員の購読料は会費に含まれています。



水かけ祭り (大東)

国香 雅彦

一関市大東大原で毎年2月11日に開催される「水かけ祭り」は、火防祈願と火防宣伝の2つを兼ねた祭りとして始まり、現在は厄落としや、無病息災等を祈願する参加者が多くなっています。当日は朝から「仮装手踊り」や「纏振り」「梯子のり」「鹿踊り」等、盛りだくさんのイベントがあり、飲食の出店も魅力です。本番の水かけは午後3時開始。5ブロックに分けて駆け抜けます。

謹賀新年

年頭所感



岩手県保険医協会 会長 小山田 榮二

日夜地域医療にご尽力されている会員の皆さまに改めて敬意を表します。2023年はロシアのウクライナ侵攻に加え、イスラエル軍のガザ侵攻により多くの人々の命と健康、日常が奪われています。国内に目を向ければ、止まらない物価高騰と円安の影響で国民生活だけでなく医療経営も厳しさを増しています。

そのような中、財務省は診療所の経常利益率が3・0%から8・8%に急増し、利益剰余金が2割程度増えたとして次回診療報酬改定について、初再診料を中心に診療所の報酬単価を引き下げ、本体をマイナス改定にすることが妥当としました。

コロナ禍で特例措置があったため急増したに過ぎず、特例も段階的に引き下げられています。地域医療を守り、医療の質、安全性を確保し、賃上げするためには、公定価格である診療報酬の引き上げが不可欠です。

また、政府は2024年秋に現行の健康保険証を廃止するため、診療報酬での誘導などあらゆる手段を使い、多くの問題を抱えたまま現在の保険証をなくそうとしています。

昨年、会員の先生方にご協力いただいた「マイナ保険証トラブルアンケート」等で別人の情報が紐づけられているなど、たくさんトラブルが明らかとなりました。

マイナ保険証の利用率が5%を切る中でもこれだけの問題が噴出しており、今年秋に廃止された場合、混乱を極めるのは火を見るよりも明らかです。オンライン請求実質義務化や医薬品供給不足、医師の働き方改革や医療従事者の不足など、多くの課題がありますが、岩手出身の大谷翔平選手が史上初のアメリカン・リーグの最優秀選手(MVP)に2度目の満票で選ばれ、日本国内のすべての小学校にクラブを寄贈するなど、嬉しいニュースもあります。また、昨年は全国で初めて、岩手県議会で「現行の健康保険証を廃止しマイナンバーカードと一体化する政府方針の見直しを求める意見書」が賛成多数で可決されました。

困難の中にも光はある―岩手という地に誇りを持ち、会員の皆さまの生活と権利を守り、県民の命と健康と医療を守ることを改めて胸に刻み、年頭のごあいさつといたします。

お知らせ

12月29日(金)〜1月3日(水)まで
協会事務所はお休みさせていただきます。



銭のひびき

2023年は百年ぶりの猛暑となり、また関東大震災からちょうど百年の節目の年でした。太平洋高気圧の発達のみであれほどの真夏日や熱帯夜が続くでしょうか。一説では、地下のマグマの活動による天と地からの熱気の影響との事です。そしてマグマが冷えた時に生じる水が断層面に入り地震を誘発するという東北大学等の有力説があります。心配なのは、盛岡での真夏日の日数の上位記録をみると、1944年、1994年、2010年で、それらの年はそれぞれ戦時中の三河地震、阪神大震災、東日本大震災の前の年という事で、猛暑の年の翌年は地震が来たということとで、あまりにも合致しています。また、政治的には三河地震は戦争中であつたため、アメリカの地震兵器によるという説もあり、関東大震災は内閣総理大臣が不在の時、また阪神大震災は社会党の村山富市氏が首相で、東日本大震災の時は自民党が下野し、菅直人氏が首相の時、いずれも政治的に不安定な時でした。

2024年は2年続けて猛暑になるのか、また政治が安定するののか、関心の高いところですが、話は変わりますが、ジャパンモビリティショーのニュースの中で日本のEV車が20分の充電で100km走行出来るのに対し、中国車のバッテリー交換が4分間で済むとの事でした。日本車のバッテリーを改良し2個に分けて同時に充電し、半分の10分にしたらと考えますがどうでしょうか。

(瀬川)



流工房の鈴木勝さん

秋田や岩手には、「まが日本昔ばなし」に描かれるような日本の美しい風景があり、岩

岩手の魅力と南部鉄

「オールいわて」で作る南部鍛造アクセサリー

流工房

「オールいわて」で作る南部鍛造アクセサリー

いわてのよいもの、よいところ

新年特集

岩手には、南部鉄器や岩屋堂筆筒など、様々な伝統工芸があります。また、クラフト展などのイベントも数多く開催され、ものづくりそのものが盛んです。

手には「自然」という財産があると鈴木さんは言います。雫石では思い立ちたり、登山に行くことができます。自然のすぐそばで暮らしていても海外や地方出張へのアクセスは都会とたいして差はなく、不便を感じることはないそうです。

鈴木さんは、岩手の文化の中で特に「漆」の仕上がりの美しさと南部鍛造と言われる江戸時代から伝わる加工技術に魅了されました。浄法寺漆は当時はあまり注目されておらず、南部鉄製品も大きく重いものが多いため、気軽に購入することが難しい点もありました。



様々な形、デザインのアクセサリーが並びます



風鈴の形になっていない部分も音を鳴らしています

そこで、お土産として手軽に購入できるように、誰も作ったことのない南部鉄の新しいデザインのアクセサリーを作り始めました。その後、蒔絵師の職人さんとの出会い、共に作品を製作、販売しているうちに浄法寺漆がブランド化されていきました。

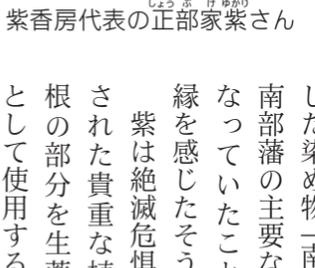
南部鉄アクセサリーの美しい黒色はお茶の葉と温泉水で染めており、試行錯誤して方法を確立したそうです。鉄のアクセサリーと聞くと重いイメージがありますが、鈴木さんはデザインし、各工程で外注できるところは職人さんに依頼する形をとっています。

地域ブランドとしての「岩手」

鈴木さんは、南部鉄器や鼻曲鉾など、岩手県内の特産品にちなんだモチーフの作品や、久慈琥珀や野田村産薔薇輝石（マリンローズ）などを使用したアクセサリーも製作しています。鈴木さん曰く「県内では様々なものが作られているが、外から来た人はそれを知らないことも多く『岩手といえば南部鉄器』というイメージもある。沿岸や内陸に『地域ブランド』があるように、岩手県もエリアとしてみれば『岩手』。岩手県全体として地域ブランドになると思う」とのこと。



ライブや展示会のグッズも製作 (左上は「鈴木敏夫とジブリ展」の「坊ネズミ&ハエドリ」と「カオナシ」のペンダント)



紫香房代表の正部家紫さん

正部家さんは、抗菌作用や保湿作用がある市販の石鹸とは違い、アトピーによる肌荒れそのものに対して効果のある石鹸を作りたいと考えました。有効な成分を調べていたところ、細胞を活性化させる作用があり、アトピーや糖尿病に効能があるとも言われ、古来中国や日本で用いられていた「紫根」を知りました。

紫との出会い

北上市で、自然由来の成分を生かした肌に優しい石鹸を作っている紫香房。代表の正部家紫さんは、ご自身がアトピーで、自分用に石鹸を作っていました。アトピーで悩んでいる方にも使える石鹸を届けたいと考え、紫香房石鹸を作りました。

天然成分100%で作る優しい石鹸

紫香房

「通常の商品の料金で作る代わりに、注文した方のアイデアがそのまま店の定番製品になりますか」と提案するそうです。これまでにイモリやお客さんの飼っている猫や犬なども製作したとのこと。また、音楽ライブや作品展などのイベントで販売される限定品の製作も行っています。

紫は絶滅危惧種に指定された貴重な植物です。紫根以外の材料も自然由来の成分を使っています。

乾燥させた紫根。乾燥前は大きさが2倍以上あるそうです。紫根は、植えても発芽するのは半分以下で、発芽した後に枯れてしまいうこともあります。苗を作ることもできず、1年に一度しか栽培できないため、栽培法を確立するまでに7年以上の歳月がかかりました。

流工房 (株式会社 TACT 興業) 住所 雫石町長山七ツ田28-5 TEL 019-691-2340 営業日 居るとき、要TEL 確認 営業時間 10:00~16:00



栗石町で、毛織物を製作、販売しているホームスパン工房「旅する羊」の猪又裕也さん。栗石にある奥様の祖父の家で、母の管理に何度か足を運び、親戚や地域の方々と関わるうちに自然や人々の温かさに惹かれ、地域おこし協力隊として千葉から栗石に移住しました。

**現代に残る手仕事
ホームスパン**

移住することが決まり、栗石や岩手のことを調べた時にホームスパンを知りました。服飾を学びアパレルで働いた経験から、手仕事の産業が今も残り、受け継がれていることに驚き、糸を紡ぐところから自分の手で製品を作れることに魅力を感じたと言います。盛岡の中村工房を訪れ、糸紡ぎ体験をした瞬間にホームスパンを生業にしたいと思い、それから4年間の修業に通いました。



猪又裕也さん。左はカラードシープの毛で織ったマフラー

ホームスパンは、スコットランドやアイルランドで作られていた織物で、明治時代に宣教師を通じて岩手に伝わりまし

**無染色の羊毛
「カラードシープ」**

ホームスパンに使用される羊毛は、白い毛を染

めたものが多いですが、猪又さんは染色していない羊毛も使用しています。世界には3千種もの羊がいるとされ、茶色や黒牛のようにまだら模様の羊もいます。白以外の羊は、「カラードシープ」と呼ばれ、これらの種からとれる羊毛を組み合わせて織ることで、無染色でも柄を作ることができま

す。猪又さんは、産地を限定せず様々な種類の羊毛を使用しており「国内では一般的に白い毛の羊が見られるが、海外には白以外の羊もいる。『カラードシープ』の存在や、染めずとも彩り豊かな羊毛本来の魅力も知ってほしい」とのこと。

ホームスパンと環境

ホームスパンは、経(タテ)糸と緯(ヨコ)糸からなる織物に分類されま



糸紡ぎのようす

す。糸を強く張る必要があり、使用する糸は強度のあるものでなければいけません。しかし、手織りの場合は速度が遅く、糸の強度をそこまで必要としないため、よりの甘い柔らかい糸を使用できます。故に空気を多く含むので、軽くて暖かく柔らかい特徴が生まれます。そして、長持ちするので、ずっと使えるという点も魅力です。



機織りのようす

柄が現れます。また紡毛機で紡ぐ糸も、手の加減で硬さや太さを調整する職人技が光ります。環境面では、羊毛機や織機はペダルを踏んで動かす仕組みで電力を必要とせず、また羊は国内でも飼育可能で命を奪わず毎年毛がとれるのも利点の一つです。猪又さんは、身近な材料と技術があれば衣類が作れるため、いつか繊維類が輸入できないような世の中になった時に、ホームスパンが人を救うのに役立つのではないかと言います。

現代の手仕事を伝える旅

旅する羊では、糸紡ぎ体験や牧羊の見学などができる体験ツアーを催行しており、1月から3月までJRの岩手県観光キヤンペーンでツアーが紹介されています。自分がホームスパンを知った時のように、ホームスパンを支える牧羊、機織りなどの生業や背景のストーリーを体験してもらいたいと思い、ツアーを企画しました。

ツアーで紡いだ糸は、後日猪又さんがマフラーに織ってプレゼント。これは猪又さんが中村工房で初めて紡いだ糸を使いマフラーを製作した経験が元になっています。初めて紡いだボコボコの糸がかえって良い表情となり、今も愛着を持って使っていることから、紡いで終わりではなく、せっかくだから使ってもらいたいとマフラーにして渡すことにしました。

猪又さんは「使い手・担い手が生まれるきっかけを作ること、現代に伝わる手仕事が未来にもつながるよう、より多くの人に知ってもらいたい」と話していました。猪又さんの作る使いやすいデザインの温かみのある製品からは、素材そのものの良さが伝わってくるようでした。

旅する羊

ウェブサイト
tabihitsuji.com

電話番号
090-8038-0567

岩手県知事登録旅行業地域限定-252号



石鹸づくりのようす
中央は紫根、右は「菜の雫」

す。石鹸の主成分の油は、栗石産の菜種油「菜の雫」を使用。泡立ちがよくしっとりとした洗いあがりになります。石鹸の香りを決める香料は、県産のウラジロモミとクロモジのエッセンシャルオイルを使用。針葉樹は香りの成分にレモンと同じ成分を含み、ウラジロモミは、柑橘類に似た爽やかな香り、ラベンダーと同じ成分を含むクロモジは、爽やかで花のような香りが特徴です。

岩手の良さとのこだわり

石鹸を作る上で岩手県産を使用し、自然のものを自然な形で加工し植物の力を引き出すことにこだわりました。岩手は自然豊かで、沢山良いものがあります。素材の良さをうまくアピールできないという現状があるため、岩手をアピールし、素材の良さを生かして勝負したかったそうです。「紫香房石鹸」は、和紙で包装され、消しゴムはここでロゴを入れていきます。

和紙もはんこのデザインもすべて岩手生まれです。正部家さん曰く「いわては楽しい、美味しい、けど厳しい」とのこと。いわての魅力は人の手が入っていない自然が多いこと。県内の産直には季節ごとに各地域でとれる様々な品物が並び、中にはクワや柿の葉など生薬になる植物もあります。産直で特産品や生薬の原材料となる植物を発見するのが楽しいと言います。

石鹸よりも試しやすいため、桜膏から試す方が多いそうです。正部家さんは、様々な生薬の成分や部位ごとの肌の特徴を事細かに把握して、調査・研究を重ねてきたことが伺えます。生薬は、ただ良いものを組み合わせただけではうまくいかず、分かっていることも多くあります。故に肌の感覚は大事とのこと。紫根を使用した石鹸を開発できたのも、試行錯誤を続ける根気と熱意があったからではないでしょうか。

植物の力を生かした肌によい製品づくりのために

製品開発の際、菜種油など石鹸の材料に選んだものは、製造しているところも可能な限り見学したとのこと。着色料や保存料を使用せず作った石鹸は、作業にかけると時間が少し変えただけで品質が変化してしまいうため、少しでも手を抜くことはできません。こだわり抜いて作った石鹸は、髪も含めて全身に使うことができ、肌荒れに悩んでいる方から肌がきれいになったという声もいただいているそうです。2021年からは、石鹸のほかにも、水分と保湿効果のある生薬を含むクリーム「桜膏」も販売。スイカズラという植物からとれる生薬「キンギンカ」と、紫根を使用しており、紫根の赤色とキンギンカの黄色に近いオレンジ色が混ざり合い、桜色になることが名前の由来です。石鹸よりも試しやすいため、桜膏から試す方が多いそうです。



紫香房
(株式会社アースライズ)

住所 盛岡市中ノ橋通2丁目11-4

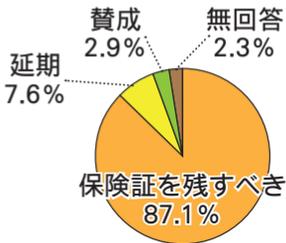
紫香房事務所 北上市相去町大谷地 136-4

TEL 0197-72-7240

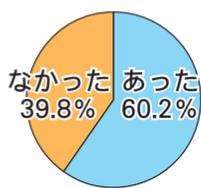
営業日 月～金曜日 (土日祝日休業)

ウェブサイト murasakikoubou.co.jp

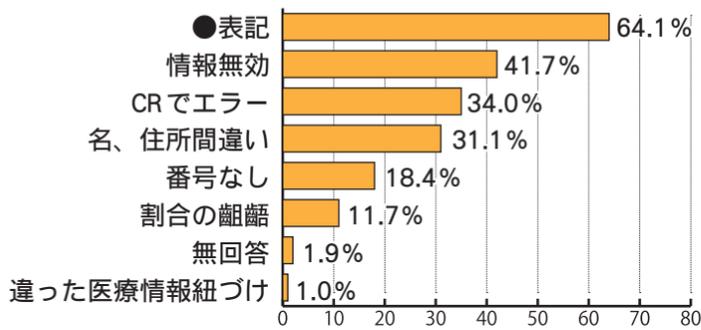
2024年秋の保険証廃止について



トラブルの有無



「あった」の内訳 (103回答) (複数回答可)



当会では昨年10月以降のマイナ保険証のトラブル調査第3弾を実施しました。アンケートは2023年の12月1日から8日にかけて、当会FAX会員540名を対象に行い171名(回答率31.7%)から回答を得ました。調査へのご協力ありがとうございました。

マイナ保険証のトラブルが「あった」が約6割(60.2%)で、10月以降もトラブルが減少していないことが明らかになりました。トラブルの内訳としては、「文字が●表記」が64.1%で最多、「情報無効」が41.7%でした。

また、「資格情報が無効」と表示されたまま半年程経過している患者さんがいる、「保険変更時のデータ書き換えが遅い」という意見や「マイナンバーカードの提出率が低い。45人中25人」、「混乱するほどマイナンバーで保険証確認する人がいない」といった意見も寄せられ、問題の改善が進んでおらず、双方が利用することに對して利点を感じていないことが伺えます。「発熱症状の患者からマイナンバーを提示されたが、カードリーダーへは誘導できない」という声もありました。2024年秋の保険証廃止については、わずかに「賛成」もありましたが、「保険証を残すべき」が87.1%で、秋までに問題を解消して保険証を廃止するのは現実的ではなく、現場もそれを望んでいないのは明らかです。

マイナ保険証トラブル調査 [第3弾]
トラブル解消進まず
「保険証を残すべき」約9割



ブロック会議のようす

10月15日、盛岡のマリオスにて東北ブロック会議がウェブ併用で開催さ

課題を共有し、活動へ生かす

東北ブロック会議

東北ブロック会議がウェブ併用で開催されました。当会からは小山田、坂本副会長、米持常任理事が出席し、他保団連、各協会から23名が参加しました。福島協会で新たに理事長に就任した曾根恵児先生よりあいさつがあり、横堀育子保団連理事より活動総括と当面の課題について報告



ケルトナー通り

12月1日、「オーストリア・ウィーンクリスマスオンラインツアー」をクリスマス特別企画として行いました。国立オペラ座前からスタートし、3つのクリスマスマーケットを楽しみました。マーケットに向かう道中、ザツハトルテ発祥の地であるホテル・ザツハーのあるケルトナー通り



フライユングのクリスマスマーケット

りや、ベスト記念柱が建つグラーベン通りなど、ガイドさんの説明を聞きながら街歩きをしました。ツアーの途中では、「ウィーンで初めてモミの木が使われたのはいつ?」などのクイズもあり、ただ見るだけでなく、ウィーンの歴史や文化を知ることができました。



市庁舎と2階建てメリーゴーランド

最も有名な市庁舎前のクリスマスマーケットは大きなアーチを抜けた先に三角屋根が並び、フライユングのクリスマスマーケットとはまた違った

クリスマスに向け賑わうウィーンを楽しむ
オンラインツアー開催



市庁舎前のクリスマスマーケット



等身大クリップ

雰囲気。店舗数を減らし通路を広くすることで、ベビーカーや車いすでも通りやすくしたとのこと。ここには2階建てメリーゴーランドがあり、大人も楽しめます。クリスマスに飾られる木の人形「クリッペ」もあり、イエス・キリストの等身大クリップも展示されていました。

良質な工芸品や厳しい基準をクリアした食品が並び、毎年大きなクリスマスツリーが飾られます。

参加した方からは、「実際に街中を歩いているところが、実際にいるかのように感じられた。クリスマスの雰囲気も感じられとても良かった」、「海外に行った気分になるのは楽しい。今後にも参加したい」などの感想が寄せられ、現地のクリスマスムードを味わうことができました。

新年特集 読者プレゼント



今回、新聞と一緒に送付したアンケートにお答えいただいた方の中から1名様に、新年特集で取材した流工房の「袱紗、ストラップ、チャグチャグ馬蹄お守りセット」をプレゼント!

北欧では鉄を身に着けると幸運が舞い込んでくるといわれ、馬蹄は金運、商売運、交通安全に良いとされています。袱紗は扇子や箸などを包むのにぴったり。2024年、ぜひ日常使いで幸運を招き入れてください。

職人技で丁寧に仕上げた、使い込むほど味わいが出る南部鉄アクセサリーをお試しください。

プレゼントをご希望の場合は、同封のアンケートに必要事項をご記入いただき、1月26日(金)までにFAXにてお送りくださいますようお願いいたします。

